

第29回厚生科学審議会感染症部会議事概要

- 1 審議開始日：平成31年1月18日（金）
- 2 議 決 日：平成31年1月21日（月）
- 3 方 法：持ち回り審議による。
- 4 議 題：
 - （1）風しんに対する抗体検査、定期接種の実施方法について
 - （2）報告事項
 - ・風しん定期接種の対象とする抗体価について
- 5 審 議 結 果：

風しんに対する抗体検査、定期接種の実施方法について了承された。

風しんに対する抗体検査、定期接種の 実施方法について

厚生労働省 健康局

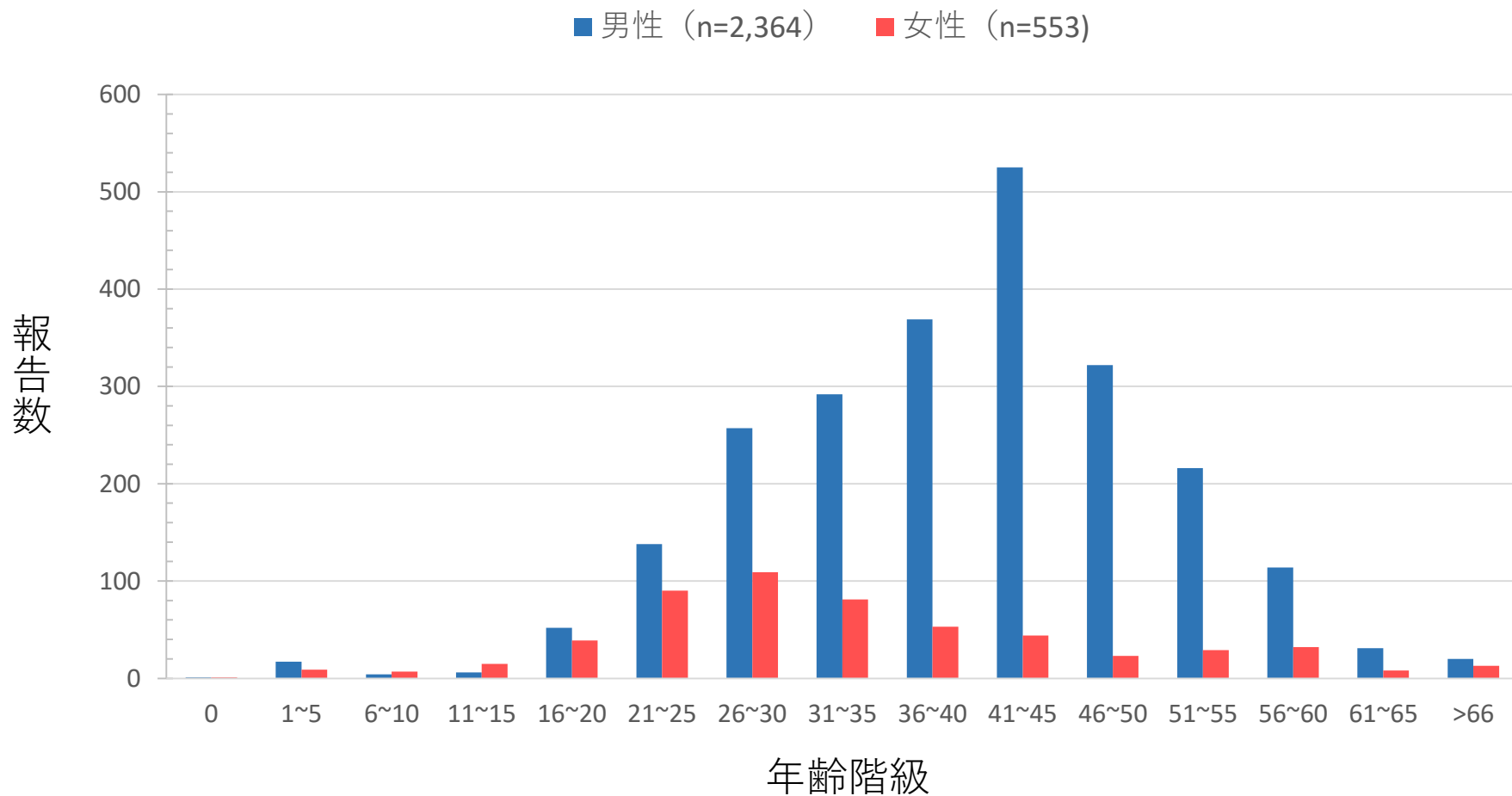
風しんに対する抗体検査、定期接種の実施方法について(案)

- これまで予防接種法に基づく定期接種を受ける機会がなく、抗体保有率が他の世代に比べて低い(約80%)、昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの世代の男性に対し、予防接種法に基づく定期接種の対象とし、3年間(2021年度末まで)、全国で定期接種を実施する。
- ワクチンの効率的な活用のため、まずは、抗体検査を受けて頂くこととする。
- 実施に当たっては、3か年計画で、①2020年7月までに、対象世代の男性の抗体保有率を85%以上に引き上げ、②2021年度末までに、対象世代の男性の抗体保有率を90%以上に引き上げることを目標とする。
- 目標達成のためには、①2020年7月までに抗体検査を約480万人・定期接種を約100万人、②2021年度末までに抗体検査を約920万人・定期接種を約190万人に実施する必要がある。
- 対象者に対しては、市町村から受診券を送付し、抗体検査の受検を積極的に案内することを予定。受診券の送付については、今後3年間の抗体検査の受検目標を効率的に達成するため(※)、3か年計画で、段階的に行うこととする。まず1年目(2019年度)は、昭和47年(1972年)4月2日～昭和54年(1979年)4月1日生まれまでの世代の男性に受診券を送付することとする。
- なお、受診券が未送付であっても、市町村に希望すれば、受診券を発行し抗体検査を受検できることとする。

※ 今後3年間の抗体検査の受検目標の達成に必要な抗体検査の供給量は確保できる見込みであるが、事業開始当初に受検希望者が集中した場合、短期的な供給不足が生じ、医療機関や対象者に混乱が生じる懸念がある。

風しん報告数 (性・年齢階級別)

• 2018年第1～52週 (n=2,917) 2019年1月7日現在暫定値



風しん抗体検査、定期接種の需要推計

単位:万人

生年月日	男性人口	国保特定健診 受診見込 (A)		健保等健診 受診見込 (B)		国保・健保等健診 とも受診しない者 (男性人口-A-B)		抗体検査受検 見込合計	定期接種	
		うち 抗体検査 受検見込	うち 抗体検査 受検見込	うち 抗体検査 受検見込	うち 抗体検査 受検見込	対象	接種 見込			
1978/4/2～1979/4/1生	82	4.1	3.3	53	42	25	1.3	47	11	10
1977/4/2～1978/4/1生	85	4.1	3.3	53	42	28	1.4	47	12	11
1976/4/2～1977/4/1生	88	4.1	3.3	53	42	31	1.5	47	12	11
1975/4/2～1976/4/1生	92	4.1	3.3	53	42	35	1.7	47	10	9
1974/4/2～1975/4/1生	96	4.1	3.3	53	42	39	1.9	47	11	10
1973/4/2～1974/4/1生	101	4.6	3.7	51	41	45	2.3	47	12	11
1972/4/2～1973/4/1生	102	4.6	3.7	51	41	47	2.3	47	10	9
1971/4/2～1972/4/1生	101	4.6	3.7	51	41	45	2.3	47	12	10
1970/4/2～1971/4/1生	98	4.6	3.7	51	41	42	2.1	47	9	8
1969/4/2～1970/4/1生	95	4.6	3.7	51	41	39	2.0	46	10	9
1968/4/2～1969/4/1生	93	4.2	3.4	43	34	46	2.3	40	8	7
1967/4/2～1968/4/1生	91	4.2	3.4	43	34	44	2.2	40	9	8
1966/4/2～1967/4/1生	91	4.2	3.4	43	34	44	2.2	40	9	8
1965/4/2～1966/4/1生	71	4.2	3.4	43	34	23	1.2	39	10	9
1964/4/2～1965/4/1生	87	4.2	3.4	43	34	40	2.0	40	11	10
1963/4/2～1964/4/1生	82	4.8	3.8	38	30	39	2.0	36	9	8
1962/4/2～1963/4/1生	79	4.8	3.8	38	30	37	1.8	36	6	5

330 } } 69

- ・健診受診見込数は2016年度「特定健診・特定保健指導の実施状況」における年齢階級別受診実績を各年齢で均等割したもの。
- ・掲載の数値は四捨五入のため、合計が一致しない。

上の表は、現時点で利用できるデータを元とし、下記の仮定をおいた上で、風しん抗体検査や定期接種の需要を試みに見積もったものであり、実際の需要を保障するものではない。

- ・ 国保、健保とも、健診を受診した80%が風しん抗体検査を受け、また健診を受けない者の5%程度が健診外で(医療機関を受診して)抗体検査を受ける。
- ・ 抗体検査で定期接種対象とされた者のうち90%が定期接種を受ける。

- 現在の患者発生状況を見ると、対象世代の中でも、若い年齢の方ほど患者数が多く、特に**1972年4月2日～1979年4月1日生まれまでの対象者(表の網掛けの範囲)**の男性の患者数が対象世代の患者数の半数以上を占める。そのため、第1段階として、1年目(2020年3月まで)は、まず当該年代の男性に対して受診券を送付することとしたい。
- 健診が春先に多く行われることを勘案すると、2020年3月までに表の網掛けの範囲の男性が抗体検査を受検すれば、「2020年7月までに抗体検査約480万人」の受検目標は達成できる。さらに、今後事業の進捗に応じて、受診券の送付範囲を見直すことや、未受検者への受検呼びかけを丁寧に行うことにより、目標の円滑な達成を目指したい。
- なお、表の網掛けの範囲の男性以外の方についても、市町村に希望すれば、受診券を発行し抗体検査を受検できることとする予定。

風しん定期接種の対象とする抗体価について

- 風しんについて、集団免疫の観点から十分な免疫があるか否かの判断は赤血球凝集抑制法(HI法)で「8倍未満」としてきたところ。
- 昨年12月13日の合同部会の議論の結果、今回行う事業に関しては、不確実性を考慮し、より一層の安全を担保する観点から、定期接種の対象をHI法で「8倍以下」(8倍以上16倍未満を含む)とする。
- なお、HI法以外の検査方法も含めた定期接種の対象は、次の表のとおりとする。

測定キット名(製造販売元)	測定原理	抗体価の単位	抗体価
風疹ウイルスHI試薬「生研」(デンカ生研株式会社)	赤血球凝集抑制法 (HI法)	(希釈倍率)	8倍以下
R-HI「生研」(デンカ生研株式会社)	赤血球凝集抑制法 (HI法)	(希釈倍率)	8倍以下
ウイルス抗体EIA「生研」ルベラIgG(デンカ生研株式会社)	酵素免疫法 (EIA法)	EIA価	6.0未満
バイダス アッセイキットRUB IgG (シスメックス・バイオメリュー株式会社)	蛍光酵素免疫法 (ELFA法)	国際単位 (IU/mL)	25未満
エンザイグノスト B 風疹/IgG (シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社)	酵素免疫法 (EIA法)	国際単位 (IU/mL)	15未満
ランピア ラテックス RUBELLA(極東製薬工業株式会社)	ラテックス免疫比濁法 (LTI法)	国際単位 (IU/mL)	15未満
アクセス ルベラIgG (ベックマン・コールター株式会社)	化学発光酵素免疫法 (CLEIA法)	国際単位 (IU/mL)	20未満
i-アッセイCL 風疹IgG (株式会社保健科学西日本)	化学発光酵素免疫法 (CLEIA法)	(抗体価)	11未満